



古代蓮の里

神秘的な美しさ
古代蓮の見頃は7月上中旬



2000年の眠りから覚めた行田蓮 (古代蓮)

今から約2000年前、「古代蓮の里」一帯は、蓮の花やたくさんの水生植物が茂る湿地帯でした。そして、そのとき咲いていた蓮の実が地中深くもぐり、再び暖かい陽射しを浴びるまでの長い長い眠りにつきました。

昭和40年代、公共施設建設工事の際に、掘削によってできた場所に水がたまって池となり、地中深く眠っていた蓮の実が静かに目覚め、可憐なピンクの花を咲かせたのです。これが「古代蓮の里」の始まりです。このように、自然発芽・開花は極めて珍しいことといわれています。

14万㎡の広い園内には水生植物園、水鳥の池、牡丹園、梅林、桜の木のあるお花見広場があり、年間を通して自然の美に触れることができます。6月下旬から8月上旬にかけては古代蓮や世界各国の蓮42種類12万株が開花します。蓮の花の鑑賞は午前中がお勧めです。

園内にそびえたつタワー（古代蓮会館）から
関東平野が一望できます



すいじょう 水城公園

ホテイアオイが池を紫に埋め尽く

忍城の外堀であった沼を利用して昭和39年（1964）に造られた公園で、釣り人でにぎわう「しのぶ池」と、ホテイアオイの群生が見られる「あおいの池」があります。ホテイアオイは南米原産の浮遊植物で、葉柄の中程の丸く膨れているところが、七福神の布袋様のおなかに似ていることからこの和名が付けました。9月から10月にかけて淡い薄紫色のすてきな花を咲かせ、初秋の風物詩となっています。



古代ロマンと 歴史が息づくまち行田



さきたま古墳公園 さきたま史跡の博物館

東日本最大の古墳群 古代ロマンを体感！

東京ドーム8個分の広さに9基の大型古墳が点在する埼玉古墳群を中心に「さきたま風土記の丘」として整備されています。日本最大の円墳である丸墓山古墳(高さ約19m)と稲荷山古墳(高さ約11m)は登ることもできます。園内のさきたま史跡の博物館では、稲荷山古墳から出土した国宝「金錯銘鉄剣(きんさくめいてっけん)」を見ることが出来ます。



さきたま 前玉神社

埼玉県名発祥の古社

さきたま古墳群に隣接する神社。高さ8.7m、周囲92mほどの浅間塚と呼ばれる古墳上に建てられています。

前玉神社は「延喜式」(927年)に載る古社で、幸魂(さいわいのみたま)神社ともいいます。700年代の古代にこの神社よりつけられた【前玉郡】は後に【埼玉郡】へと漢字が変化し、現在の埼玉県へとつながり、埼玉県名の発祥となった神社であると言われています。ご祭神は前玉彦命・前玉姫命の二柱で、男女の神が一緒に祀られていることから、恋愛成就を祈願する参拝者が多く見られます。

PickUp

さきたま火祭り



古事記によると……天照大神の孫、瓊瓊杵尊(ニニギノミコト)が大山津見神の娘、木花開耶姫(コノハナサクヤヒメ)と婚姻。ニニギノミコトに一夜の交わりで身ごもったことを疑われたコノハナサクヤヒメが、疑いを晴らすため「神の御子であるならば、たとえ火の中でも無事に生まれるでしょう」と自ら産屋に火を放ち、その中で海幸彦(ウミサチヒコ)と山幸彦(ヤマサチヒコ)を無事に出産した……とあります。

さきたま火祭りは、悲しくも激しい愛を貫いたコノハナサクヤヒメが観る人びとを古代ロマンと神話の世界に誘うお祭りです。

例年、5月4日には、さきたま古墳公園で、「さきたま火祭り」が開催されます。日中は、お祭り広場で郷土芸能や物産展、フリーマーケット等、盛り沢山のイベントが行われます。

夕闇が迫るころ、さきたま火祭りのクライマックスを迎えます。勇壮な音楽に合わせて古代衣装を身につけた地元の人々が、ニニギノミコト、コノハナサクヤヒメを先頭に松明をかがげて大行列、そして産屋炎上、続いて200人余が松明を持ち、丸墓山、稲荷山から降りてくる御神火下りと、神秘的・幻想的なお祭りです。



写真提供：フォトさいたま